

## ■高校野球のケーススタディー（第1回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合に生じたプレイの中で、“こんなプレイ、どうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

### ○ タイブ레이크って・・・どんなルール？

第101回全国高等学校野球選手権兵庫大会は、160ゲームが行われ、明石商業高校の優勝で幕が閉じられました。延長のゲームは12試合で、そのうちタイブ레이크は5試合ありました。

タイブ레이크は、延長13回から無死1、2塁の状況で行われますが、第100回から導入されたこともあり、各チームや審判委員において不慣れな点が多く、うまく運営されない場面がありました。

そこで、今回はタイブ레이크になったときのため、知っておかなければならない事項について、解説してみたいと思います。

### ① タイブ레이크とは・・・

タイブ레이크について、高校野球では「高校野球特別規則・22 タイブ레이크制度の採用」に規定されています。

① 12回終了して同点の場合、13回からタイブ레이크を開始します。

② 打順は、12回終了時の打順を引き継ぎます。

(次回以降も前イニング終了後からの継続打順となります。)

※走者は、無死1・2塁の状態から行います。この場合の2人の走者は、先頭打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者となります。

例えば、12回の攻撃において8番打者で終了した場合、13回の攻撃では9番打者が先頭打者、8番打者が1塁走者、7番打者が2塁走者となります。

「投手」であっても該当する打順であれば、走者となります。臨時代走者には、投手は除かれるとする特別規則がありますが、タイブ레이크のときは走者となりますので混同しないようにしましょう。(誤って理解されていることが多いようです。)

③ タイブ레이크が開始した後、15回を終了し決着していない場合は、そのまま試合を続行します。ただし、1人の投手が登板できるイニング数は、15イニング以内を限度としていますので、初回から出場している投手は、16回から交代しなければなりません。

④ 「決勝」は、タイブ레이크を採用しません。

決勝での延長回は15回で打ち切り、翌日以降に改めて再試合を行います。

決勝の再試合では、タイブ레이크制度を採用します。

